

新潟市水族館指定管理者
平成25年度事業計画書

※ 事業やショープログラム等については、名称・内容・実施時期等は案であり、変更する場合があります。

1 施設の管理・運営に関する業務

(1) 基本姿勢

「新潟市水族館の管理に関する基本協定書」「新潟市水族館の管理に関する年度協定書」に従い、「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」及び、その他「新潟市水族館の管理運営業務を遂行する上で関連する法規」を遵守し、新潟市の示す「新潟市水族館の基本的使命」の具現化に向けて業務を推進します。

業務に必要な専門的知識や技能・資格等を備えた職員を配置し、平成2年の開館当初から培ってきた豊富な知識と経験を生かし、「安全・安心の確保」「安定した施設運営」を心掛け、効果的かつ効率的な管理運営を行っていきます。また、今年度の開館期間はリニューアル工事のため7月中旬から3月までとなります。

(2) 入館者・入館料収入

「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」に則り、適正に入館料徴収事務を行っていきます。

平成25年度の入館者数及び入館料収入の目標値は下記のとおりです。(7月中旬～3月)

| | 目標値 | 目標値の設定根拠 |
|-------|--------------|-------------------|
| 入館者数 | 431,000人 以上 | 新潟市25年度当初予算(端数整理) |
| 入館料収入 | 426,000千円 以上 | |

リニューアル後の水族館の魅力を最大限に発揮し、充実したサービスを提供し、目標値に達するよう努めます。常におもてなしの心を持ち、「来てよかった、また来たい」と感じてもらえるようなサービス提供を心掛け、リピーターの確保に努めていきます。

(3) 臨時開館・閉館及び開館時間の変更

条例上、水族館の休館日は12月29日から翌年1月3日、開館時間は午前9時から午後5時までとなっていますが、多客期の市民サービス及び法定点検等のため、新潟市と協議のうえ、以下の期間について臨時開館・休館、開館時間延長を実施したいと考えています。(リニューアル工事のため変則的)

- ① 臨時開館(年始) … 平成26年1月2日・3日
- ② 臨時閉館(電気設備法定点検等) … 平成26年3月6日・7日
- ③ 開館時間変更
 - a. GW… リニューアル工事中
 - b. 海の日…平成25年7月15日
開館時間30分繰上…午前8時30分開館
 - c. 夏休み…平成25年7月20日～9月1日の土曜・日曜日(下記お盆期間を除く)
閉館時間1時間繰下…午前9時～午後6時閉館
 - d. お盆… 平成25年8月13日～16日
開館時間30分繰上及び閉館時間1時間繰下…午前8時30分～午後6時閉館

2 事業の実施に関する業務

(1) 水族館展示基礎部門（常設展示）

約 450 種、20,000 点の魚類等の飼育展示規模を維持するとともに、科学的配慮に基づく展示生物の収集、育成、訓練に努め、展示内容の魅力の向上を図ります。来館者に対する正確かつタイムリーな情報提供に努め、常に新鮮味のある、魅力溢れる常設展示を心掛けます。

また、解説を含むプレゼンテーション型展示として、イルカショー、トドの給餌タイムを通年実施します。秋からは、ペンギンの散歩、アシカの解説を実施します。

(2) 啓発・普及部門

① 特別展の企画運営

季節的かつテーマに基づく特別展示を行い、常設展示を補完します。

a. 春期特別展 リニューアル工事のため実施しません。

b. 夏期特別展「リニューアル写真展」

開催期間…平成 25 年 7 月 15 日（祝）～9 月 1 日（日）

閉館前の生物搬出、リニューアル工事、オープン前の生物搬入の様子などを写真パネルで紹介します。

c. 臨時特別展示

開催時期…随時

小規模水槽による季節展示等を行います。

② いきもの教室の企画運営

水生生物に関する知識の普及と生き物への理解を深めることを目的に、屋内での観察・実験などを 9 月以降 5 回実施します。季節感も考慮したテーマ設定を行い、また、対象年齢により内容と解説方法にも工夫を施すことで、参加者全員が楽しく理解を深められるように心掛けます。

③ 体験・学習解説の実施（新規）

体験学習コーナーにて、来館者に対し水生生物に対する知識と理解を深める事を目的に、観察と解説を行います。内容は参加者の年齢に合わせて解説方法等を工夫すると共に、季節感を重視し、定期的にプログラムの変更を行います。参加者に楽しく学んでもらう事を念頭に置き、内容を吟味して行うよう努めます。

1 回/日、約 15 分間

④ 大水槽前解説の実施（新規）

水生生物や海洋環境に関する知識の普及を目的に、大水槽前で飼育員による解説を実施します。展示生物の紹介、気候や海流、水族館のしくみなど多角的な解説を行い、日本海のみならず、他の海洋へ興味を持つきっかけとなるような、魅力ある解説を目指します。

2 回/日、約 10 分間

⑤ タッチ水槽ガイド いきもの解説

タッチ水槽内にて、顕微鏡、カメラ、モニターを用いて、館内にて飼育している生き物の生態や形態について解説を行い、館内の生物やタッチ水槽の生物を近くで観察して貰うことによって、生物の扱い方や、生息環境への理解を深めてもらいます。

簡単な実験をお見せしながら、生き物の生態を紹介します。

1回/日 約15分間

⑥ 体験スクールの企画運営

例年夏休み中にサマースクールを実施していますが、今年度は夏休み直前にリニューアルオープンするため夏期の実施は多客中での混乱をさけるために行わないこととしました。しかし、人気の高いプログラムであるため、時期を移動して秋以降に実施いたします。

普段接する機会の少ない生き物に直接触れ合い、学習できる体験型プログラムを実施します。水生生物に関する正確な情報を提供することで、野生種の生存への関心を深めてもらい、環境保全について考える機会にしてもらいます。

※平成24年度にはサマースクールとして以下のプログラムを実施。平成25年度の体験スクールも生物の負担（体調）等を勘案しながらとなりますが、同様のプログラムを実施する予定です

a. ドルフィンスクール

イルカの正確な知識を深めてもらうことを目的に、主に児童と保護者、生徒を対象とした受講や体験するプログラムを実施します。写真や標本を用いて鯨類の分類、雄雌の違い、訓練、健康管理などに関する講義を行うことにより、鯨類の正確な知識や訓練の必要性を学んでもらいます。その後、イルカの観察、ポディーチェック体験等を通して、実際に間近でイルカの正確な体の形などを楽しく学んでもらいます。

b. イルカトレーナー体験

イルカ学、飼育環境を学んでもらうことを目的に、高校生以上を対象としたトレーナーの日常業務の一部を体験する専門的なプログラムを実施します。イルカを飼育する上で不可欠な飼育環境の整備、餌の管理、健康管理、飼育日誌の記入等を体験的に学んでもらいます。また、イルカの訓練の目的を理解し、訓練により初めて可能となるポディーチェック等の健康管理、採取試料の分析も実際に体験してもらい、鯨類の正確な知識や訓練の必要性などを楽しく学んでもらいます。

c. ふれあい探検

生き物を間近から観察し、餌やり体験や実際に触れることで、水生生物の体のつくりや生態を楽しく学んでもらいます。

飼育員の仕事を体験することで、生き物に対する興味を深めてもらい、何気なく見ている水生生物にも興味を持ってもらうことを目指します。

主に児童、ファミリー層を対象としたプログラムを行います。

⑦ ナイトツアーの企画運営

通常観ることのできない閉館後の夜の水槽の様子を観察してもらい、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等をツアーガイド形式で解説することで、水生生物の生態や自然環境への関心を深めてもらいます。

主にファミリー層を対象としたプログラムを行います。

⑧ 特別スポットガイド

個々の水槽の前でその水槽を担当している飼育員が解説します。担当者としての「こだわり」や「おすすめ観察ポイント」などを直接来館者に語りかけることで、より水生生物を身近に感じていただくことを目的とします。担当者や生物の状態により、不定期で実施。

⑨ 大人向け水族館講座

高校生以上の大人を対象にした事前応募型プログラムを実施します。1回ごとの単独プログラムとして数回実施する予定です。このプログラムを実施することで生涯学習の場としての水族館の位置づけをより明確にします。

また、大人が持っている潜在的な学びへの意欲に対応するプログラムを実施することで、啓発・普及プログラムに幅を持たせることを目的とします。

実施時期 平成25年11月から平成26年3月にかけて3～4回程度

内容 水族館ファンの大人を想定した「飼育の裏話」や水族を通した「科学的な話」「環境問題」などのプログラムを検討します。

⑩ にいがたフィールド（リニューアル新設）での啓発・普及事業（新規）

a. 田んぼ

5月中旬～下旬に田植えイベントを実施します。また、稲の生育状況を見ながら、観察会などを随時実施します。

b. ため池→田んぼ→小川→湧水→砂丘湖

水辺の環境とそこにすむ水生生物を題材にした観察会などを随時実施します。

c. メダカ里親

リニューアルオープン前にメダカの里親を募集する。メダカの稚魚を配布して大きくしてもらい、オープン前に放流イベントを行います。身近な水辺にすむメダカを題材にして命の教育および環境教育のきっかけとします。

⑪ 写真展

来館者が館内で撮影した写真（生物写真や水槽写真など）を応募してもらいコンテストを開催する。入賞した作品を館内で掲示、展覧会を開催する。写真を撮ることで、生物をじっくり観察する行動のきっかけとなります。

(3) 学習・交流部門

① 総合学習（文部科学省の提唱に基づく学習支援活動）の受け入れ

小・中・高等学校等からの要請により、生徒、児童に対して、質疑応答やキーパーエリアガイドを実施し、水族館や水生生物、環境への理解を深めてもらいます。

2回/日、内容により約30分～1時間、1回10名程度

②実習生の受け入れ

a. 博物館実習

大学からの要請により、学生に対して生物を対象とする博物館としての特性を指導します。

b. インターンシップ

大学からの要請により、学生に対して職業理解や人材育成等を目的に実施します。

c. 職業実習（業界研修）

専門学校からの要請により、専門学校生に対して職業理解や人材育成等を目的に実施します。

③講師派遣

新潟大学理学部附属臨海実験所主催の臨海実習に講師を派遣し、県内の高校生及び理科教育関係者に対して海洋生物の採集や観察、分類に関する指導を行います。

また、市内の学校等からの要請により、出張授業や職業講話等、教育現場への講師派遣を行います。

(4) 調査・研究部門

①飼育生物に関する調査研究：観察、実験等によって得られた知見の蓄積と公開

<魚類等の繁殖・育成に関する調査研究>

a. 魚類等の繁殖・育成

水族館で飼育している魚種の中で、飼育下で繁殖・育成している種はまだまだ少ないのが現状であることから、繁殖・育成に取り組むことで魚類学・生物学の知見の蓄積に貢献していきます。

大学等の専門研究機関と協力し、生物学等の知見の蓄積に貢献するとともに、研究結果等を展示にフィードバックしていきます。

b. 海産無脊椎動物の繁殖・育成に関する調査

刺胞動物門（クラゲ等）、軟体動物門（イカ等）、節足動物門（エビ等）の繁殖・育成に取り組み、生物学の知見の蓄積に貢献していきます。

<鯨類の繁殖生理に関する調査>

a. 雌の排卵周期についての調査

・非侵害的方法を用いた排卵周期推定技術の確立（継続）

イルカの膻粘液等を定期的に採取し、非侵害的方法を用いた排卵周期推定方法の確立を目指します。

b. 雄の発情期についての調査

・カマイルカの血清テストステロン濃度と精液中精子数に関する調査（継続）

雄の発情期の把握を目的に、飼育下カマイルカ雄の血清テストステロン濃度と精液中精子数について調査していきます。

<死亡時の病理的な調査>

各臓器や血液等のサンプルを、必要に応じて大学機関等との連携により、組織学的検査や分子生物学的な検査を実施します。死亡動物の病因や死因の解明を目指し、得られた知見を飼育管理に役立てていきます。

②野生水族に関する調査研究：地域の自然史に関する知見の蓄積と公開

<漂着生物調査>

漂着生物の情報を収集し、生態学的・生物学的解明に役立てていきます。漂着情報を確認次第、現場に赴き計測と状態の確認、適宜標本の採取を行います。得られた情報及び試料は、館内の展示や体験プログラム等に反映させていきます。

<地域生物調査>

トゲウオ類、メダカ等地域に分布する水族の生物学的研究を行い、環境教育等に役立てていきます。

③希少水族に関する調査研究：繁殖、種保存活動、希少水族の生息域調査、生息域外保存に関する知見の蓄積と公開

<フンボルトペンギン>

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、フンボルトペンギン（CITES I種）の生息域外保存（飼育下の繁殖等）に取り組みます。

<ラッコ>

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、国内で急速に減少している飼育下のラッコの繁殖に取り組みます。特に同委員会では、ブリーディングローン（繁殖を目的とした賃借）等での繁殖率の向上を目指しており、これに呼応していきます。

<シナイモツゴ>

シナイモツゴ（環境省RDB 絶滅危惧ⅠA類）の生息域調査を行い、環境教育等に役立てていきます。また、日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、生息域外保存、繁殖技術の向上に取り組みます。

<ホトケドジョウ>

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、ホトケドジョウ（環境省RDB 絶滅危惧ⅠB類）の生息域外保存、繁殖技術の向上に取り組みます。

<ハクバサンショウウオ>

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、ハクバサンショウウオ（環境省RDB 絶滅危惧ⅠB類）の生息域外保存、繁殖技術の確立に取り組みます。

3 リニューアル工事への協力

昨年度から旧施設、設備の飼育・運転状況などの情報提供、及び実施設計における問題点の提議・

改善案の発案など、各工事で協力してきましたが新年度からはその最終段階に入ります。したがって昨年度に比べ、より細分化された多分野での協力が必要となりますが、各工事の進行に遅滞や支障をきたさないよう、できる限りの協力体制を敷いてまいります。

他館の飼育施設へ預託した海獣の輸送（帰還）については、輸送生物に大きなリスクを伴います。そのリスクをできるだけ軽減させるため、受入施設完成後できるだけ早い時期（気温が高くなる前）に輸送するほか、輸送方法・経路・天候等にも細心の注意を払い、計画的に実施していきます。また、魚類の入手については、その季節にしか入手困難な種は昨年度より随時確保してきましたが、仮収容設備（仮設予備水槽数や冷却・加温機能）に制限があることから、十分な個体数・種類が確保できないため、他館へ協力を依頼する計画になっております。

引渡し後、想定される施設・設備の不備・不具合（瑕疵）など不測の事態が発生した場合には、市への報告協議のうえ今日までの経験や知識に基づいて柔軟かつ適切に対応いたします。また、リニューアル工事で予算不足のため実施することができなかった修繕工事については、通常営業に支障を来たさぬよう複数年計画で予算計上していき、安定的で円滑な運営の構築に努めます。

4 市民ボランティア

市民ボランティアの活動目的を大きく「水族館運営のパートナーとして」「来館者と水族館をつなぐ役割として」「生涯学習の場として」の3つとし、活動の運営を行います。いきもの教室の補助、館内案内、簡単な解説、職員や来館者との交流等の活動を通して、前記の3つがバランス良く達成できるように努めます。特に、リニューアルで新規に設置される「にいがたフィールド」「体験・学習ゾーン」「キッズコーナー」での活動を推進します。

平成25年度は7月中旬のリニューアルオープンを見据えて、4月中旬頃から5月にかけて新規募集を行います。6月からオープンまで継続メンバーと新規メンバーに対する新施設での研修を行い、オープンに備えます。

また、ボランティアの自主性をより活性化するために、オープン後も研修プログラムを充実させていきます。水族館、来館者、ボランティアの3者が満足できる活動を推進することで、持続的なボランティア活動を目指します。

5 他館等との協力

平成19年度に友好館提携を結んだ「アクアマリンふくしま」をはじめ、他の水族館・動物園、研究機関等と協力し、生物交換、飼育生物の繁殖や育成に関する情報交換・技術交流を活発に行っていきます。

行政や自然保護団体等と協力し、種の保存や自然保護の啓発に努めていきます。

6 広報および広告宣伝

各メディアの特性を把握し、より「広報」的な活動を重視した取り組みを行っていきます。特に、ウェブサイトによる情報発信は、他のメディアに比べて、正しい情報を分りやすく適切なタイミングで提供できることから、より充実した運用を行っていきます。

25年度はリニューアルオープンを見据えて、6月下旬頃よりオープン前の広報・広告宣伝を活発

化する予定です。テレビCMおよびFM用CMを新規に製作します。

広告宣伝は、これまでの実績をもとに、より効率的な方法および量になるように実施します。6月下旬より県内及び山形・福島でテレビCMを実施します。テレビ広告が非効率的な群馬と長野については、FMラジオ広告を実施します。リニューアルオープンの前後で内容を変え、オープン前に間違っ
て来館することが無いように配慮します。

平成18年度から行っている新聞折り込みチラシについては、平成24年度に引き続き、山形・福島・群馬・長野・埼玉の5県で展開するとともに、県内の一部で実施します。

7 アンケートの活用

館内アンケート、各教室参加者アンケート等を実施することで、来館者の声の収集に努め、その声を検証し、事業実施や事業の改善に役立てていきます。

「館内アンケート」は、満足度を数値化できるような設問を盛り込むことで、各種サービス別に来館者の客観的な評価やニーズの把握に努めます。また、「各教室参加者」等の水族館ファン層に対する「質的」なアンケート等を実施し、質的データ分析等の最新の分析方法を積極的に取り入れながら、よりきめ細やかなニーズを把握することで、展示の充実および来館者サービスの向上に努めます。